

令和6年度 第3回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：令和7年3月5日（水）午後3時30分から午後5時25分まで

場 所：富谷市役所 3階 305会議室

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員11名

：富谷市9名

：事務局5名

：オブザーバー（富谷中学校生徒）2名

1 開会（司会：企画部長）

2 市長挨拶（若生市長）

皆様、お疲れ様でございます。本日は、本当に年度末のお忙しいところ、また足元が悪い中、第3回富谷市総合計画審議会にご出席いただきましたこと、心から御礼申し上げます。また、各委員の皆様には日頃から市政全般について、様々な形でご支援、ご指導、ご協力を賜っておりますこと、改めてこの場をお借りして心から御礼申し上げます。そして、只今ご紹介がありましてとおri、本日は富谷市内の中学生を代表して富谷中学校のお二人にも参加をいただいております。どうぞよろしくお願い致します。

富谷市は、「子どもにやさしいまちづくり宣言」を行い、「子どもにやさしいまちづくり実践自治体」として取組を進めているところであり、特にその中でもこどもの権利を守り、こどもの声を市政に反映していくことを大事にしております。毎年、「世界子どもの日」である11月20日には、「わくわく子どもミーティング」を開催し、市内8つの小学生の代表の皆さんから私が直接ご意見を伺う機会を設けており、また「生徒会サミット」では市内5つの中学校の生徒会の皆さんからのご意見も伺っております。また、富谷高校の生徒の皆さんからも様々な機会でご意見をいただいております。このように様々な機会を通じて、全庁をあげて取り組んでいることが高い評価をいただいております。昨年9月には中国で行われたユニセフ東アジア太平洋地域の「子どもにやさしいまち会議」に日本を代表して富谷市が招待され、発表を行ってきたところでございます。そういった関係で、最上位計画である総合計画の審議会にも毎回、中学生の代表の皆さんに参加をいただいております。

さて、3月に入り、令和6年度も間もなく終えようとしておりまして、いよいよ4月からは令和7年度がスタートいたします。本市におきましても、2月20日から定例議会が開会し、3月3日からの3日間是一般質問が行われたところであります。この定例議会は、令和7年度当初予算をご審議いただくという意味で大変重要な議会であり、色々なご意見をいただいております。皆様ご承知のとおり、富谷市の市制施行は平成28年10月10日でありまして、富谷市として新たな歴史を歩み始める時に、市民の皆様からいただいた様々な声に基づき作り上げたものが第1次総合計画であります、いよいよ令和7年度は最終年度になります。本日は令和6年度に入って3回目の審議会になりますが、今回も委員の皆様からご意見を賜りたいと思います。また、昨年の12月、今年の1月、2月と3回にわたって市民ワークショップを開催しましたが、10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代という幅広い年代の皆様にご参加いただき、本日ご出席の委員の中では、増田委員にもご参加いただきま

した。なお、ワークショップのファシリテーターは宮城大学の石内教授に務めていただき、また、宮城大学の学生にも各グループのサポート役を務めていただきました。1回目、2回目のワークショップでは富谷市の課題について議論を行い、3回目では、「富谷市にこんな事業があったら、こんなものがあったらいいな」といった希望について議論し、色々なご意見をいただいたところでございます。そういった市民の皆様からいただいた声も今後の総合計画の検討に含めていきたいと考えております。

また、令和6年度に実施した市民アンケートにつきましては、大変高い回答率でありました。そういった市民の皆様から頂いた声やニーズ調査結果なども含めまして、いよいよ本日は総合計画の方向性の素案についてご提案をさせていただくことになります。特に毎回、アンケート調査において、必要な事業として最も多いご意見が基幹公共交通についてでありまして、今回のアンケートでも73.3%の皆様が必要な施策の中の第1位として、泉中央からの軸となる基幹公共交通をあげており、いわゆる富谷市の弱点である基幹公共交通を何とかしてほしいというご意見を多くいただいております。昨年末から富谷市の新しい公共交通会議を進めているところでありますが、その中で地下鉄、BRTはどれも膨大な整備費用が掛かることが想定されますので、第3の候補として新たに都市型ロープウェイを提案したところ、色々な報道にも取り上げられたこともありまして、注目をいただいているところでございます。都市型ロープウェイは令和7年度に導入が可能かどうかも含めて調査を行うところでありますが、調査を行う前からこれほど注目されていることに正直驚いております。市民の皆様が課題解決を望まれている基幹公共交通については、しっかりと令和7年度に導入が可能かどうかを含めて調査を進めていければと考えております。

これから本格的に総合計画の策定について審議委員の皆様のお力添えをいただきながら進めたいと考えておりますので、本日も限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 会長挨拶（風見会長）

皆さん、こんにちは。

只今、若生市長からもありましたとおり、年度末の大変忙しい時期になってまいりました。本日は名残雪のようなものが降っておりましたが、春の訪れを感じられるような日々になってまいりました。そのような中、第3回富谷市総合計画審議会の開催にあたっては、若生市長を筆頭に事務局、行政の方々に資料を作成いただき、また、委員の皆様にもしっかりとご確認をいただいていることと思います。本日は、基本構想が出来上がってくるということで、総合計画審議会は2年間を掛けて進んでまいりますが、ちょうど折り返し地点になるということだと思います。

基本構想があつて、それを踏まえた基本計画になりますが、本日は基本構想について、いわゆるビジョンとしてどうなのかというところをしっかりと捉えていただければと思います。事前に資料を拝見しましたが、前回委員の皆様からいただいた、ポイントを捉えた沢山のご意見を踏まえて事務局で揉んでいると感じます。基本構想ということで、より大きな言葉にはなっておりますが、それらを基本計画に繋げるための試金石としてどこまで埋め込んでいくか、前回の議論でありましたとおり、より富谷市らしい表現やキーワード、これをどのように入れていくべきかが大事になろうかと思います。

また、本日は富谷中学校のお二人にも参加いただいております。緊張しているかもしれませんが、全く緊張する必要はありませんので、大人たちが真剣に議論している姿を見ていただいて、皆さんもこれに加わっていただき、しっかりとご自身のご意見でお話いただければと思います。

若生市長がおっしゃったように、総合計画は自治体の最上位の計画になりますので、これを決めることによって各施策も決まってくることになります。そういった意味で我々審議委員の責任は大変重いものであります。先日、私が会長を務めるとうほくPPP・PFI協会に東北地方整備局、東北農政局、東北経済産業局の3局長がお越しになり懇談をしましたが、そこで感じたのは3省庁の政策がオーバーラップしていて省庁ごとの話ではなくなっており、つまりは地方創生に繋がる話であるということです。石破政権の中で最も重要視している政策は地方創生になりますが、東北地域の中で富谷市は地方創生のトップリーダーを目指されるものと思っております。この場をお借りして恐縮ですが、ちょうど3局長と勉強会をしようと意気投合しましたので、若生市長にお声掛けをさせていただきます。3局長には富谷市のことをしっかりとPRしてきましたが、勉強会の際には若生市長からも直々にPRをいただければと思います。

まちづくりで大事なことは3つあると思います。1つ目は、サステナビリティです。持続可能な社会をつくるということは今の時代の一番の大命題であり、まさしく環境、自然との融合を考えるということです。2つ目はレジリエンスです。災害の時代になりましたので、防災、そして安全について考えるということです。そして、3つ目は皆さんも沢山お聞きになっている言葉かもしれませんが、ウェルビーイングです。これは幸福感であります。富谷市が住み続けたいまちに選ばれるためには、何といてもウェルビーイングがしっかりしている必要があるかと思えます。この3つが重要になるかと思えますので、今回の基本構想もそういった観点で見ていただければと思います。

今回、基本構想にもう1つ入れていただいたのは、富谷市の特徴であり、若生市長も常におっしゃっている「市民力」になります。「市民力」を生かして「オールとみや」で地域資源を発掘し、「とみやど」や大亀山森林公園然り、資源の有効活用によって産業政策や観光政策を含めて牽引していく取組を富谷市は続けてこられて、ちょうど10年の節目になります。平成28年がスタートでしたので、時の流れは非常に早いものでありますけれども、宮城大学もすぐに連携をさせていただき、今回の市民ワークショップでもファシリテーターとしてサポートをさせていただいております。本日は、中学生のお二人が参加しておりますけれども、皆さんの世代が未来を作っていきますので、それを受けて多世代でしっかりと合意形成を図る、ビジョンをつくることが重要であります。それが今回中学生の皆さんをお呼びしている背景になりますので、お二人には積極的にご発言いただいて、また、委員の皆様にはそれに負けないようにいつもの熱い議論をお願いしたいと思います。

最後に、新しい基幹公共交通の検討については、色々なところから反響が大きいかと思いますが、それだけ富谷市になくてはならない、あって当然という認識が市民の皆さんの中にある、一歩踏み出す時が来ているのではないかと思います。令和7年度に調査されるということですが、今、国レベルでも県レベルでも富谷市に対する期待が高まっており若生市長は調整が大変かと思いますが、皆さんで応援し、政策を一緒につくっていく、実行する部隊であるという決意のもと本日も審議を進めていただければと思います。

それでは、時間は限られておりますが、活発なご議論をよろしく願いいたします。

※ここから、風見会長が議長となり議事が進行された。

4 議事

(1) 第2次富谷市総合計画・基本構想案について

(風見会長)

それでは、議事の1つ目、(1) 第2次富谷市総合計画・基本構想案について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料1をご覧ください。富谷市の現状と市民ニーズ・課題についてご説明いたします。第2回の審議会でお示ししておりますが、前回から追加した内容をピックアップしてご説明いたします。

3ページをご覧ください。第1次総合計画から大事にしているまちづくりのキーワードとしまして、第2次総合計画におきましても、引き続き、継承する考え方としてお示ししております。1つ目が、「田園都市の実現」でございます。本市は、田園地帯や森林が広がる地域がある一方で、新興住宅地や商業地が広がっているなど、豊かな自然の中に、生活環境が整った良好な市街地があるような、多くの人々が豊かに暮らせる田園都市構造を形成してきております。「住みたくなるまち日本一」の実現に向けて、田園都市構造をさらに発展させながら社会生活と自然の調和が図れる持続可能な田園都市を目指すものでございます。

4ページをご覧ください。2つ目のキーワードは、「子どもにやさしいまちづくりの推進」としております。本市の全庁的な取組として、「富谷市子どもにやさしいまちづくり推進庁内連携会議」を設置しております。平成30年11月に「子どもの権利条約」の5つの柱からなる「富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言」、令和3年12月には、国内で初めて子どもにやさしいまちづくり実践自治体として、日本ユニセフ協会から承認を受けております。「子どもにやさしいまちづくり」につきましましては、職員一人ひとりの意識醸成、「わくわく子どもミーティング」等を開催して、こどもたちの意見を行政に反映することを心掛けて「子どもにやさしいまちづくり」を実現する取組を行っております。「子どもにやさしいまちづくり」の視点を取り入れていく意識の醸成が図れるよう、全庁的に推進してまいりますので、第2次総合計画でも継承するキーワードとして掲載しております。

続いて、ページが飛びまして、32ページをご覧ください。市民ワークショップの概要についてまとめております。第2次富谷市総合計画の策定にあたりまして、昨年12月から今年2月にかけて3回開催いたしました。参加者は、富谷高校の生徒をはじめとして80歳代までの幅広い年代の市民の方33名にご参加いただき、富谷市の未来について議論をしていただきました。ワークショップでは、6つのテーマごとに分かれて、議論していただきましたので、テーマごとに主なご意見を紹介させていただきます。1つ目のテーマ、活力と魅力があふれるまちでございますが、主なご意見として、R&D型など若者が働きたくなる企業の誘致、新たな特産品の開発、酒粕の活用、地域農産物のアピール、富谷の貴重な歴史、伝統、文化財の研究、啓蒙など産業や観光、歴史の分野で幅広く、ご意見をいただいております。

続いて、33ページをご覧ください。2つ目のテーマ、快適で住みよいまちにつきましましては、泉中央までの移動手段整備、カーシェアの推進、休耕地や道路沿道等を花畑に整備、倉庫の活用として、物流の施設が増えてきたことで、倉庫の壁面を活用したプロジェクションマッピング、アート等を行って

ほしいといったご意見、その他、大亀山森林公園の更なる活性化等のご意見をいただいております。3つ目のテーマ、こどもと子育てにやさしいまちにつきましては、子育て、学校教育の分野で、多様な世代との交流確保、こどもたちへの農業体験、食育の実施、地域住民から学ぶことができる環境づくりといったこども目線、子育て、教育目線でのご意見をいただきました。

続いて、34ページをご覧ください。4つ目のテーマ、誰もが生き生きと暮らせるまちにつきましては、障がい者との交流環境の整備として、手話講座などの開催、健康と教育を融合したダイエット講座の開設、シニア世代が活躍できる場の創出、全世代が交流できる機会の創出など、健康・福祉・医療・生涯学習等の分野でのご意見をいただいております。続いて、5つ目のテーマ、安全安心で誰もが暮らしやすいまちにつきましては、地域住民同士の交流機会の創出、町内会による見回り、ワンワンパトロールの継続、避難所の整備・周知徹底、外国人との交流機会の創出、男女間格差の排除、人権についての周知徹底などのご意見となっております。

続いて、35ページをご覧ください。6つ目のテーマ、未来へつなぐ環境にやさしいまちにつきましては、ホテルが生息できる河川環境の整備、里山づくり促進、電気自動車の普及促進、ゼロカーボンにつながる行動の意識醸成などのご意見となっております。今ご説明したご意見は一部抜粋した内容でございます。市民ワークショップの詳細につきましては、資料4として報告書を添付しておりますので、後ほどご確認いただければと思います。今回のワークショップでは、10代から80代までの幅広い年代の方が、将来の富谷市に対する想いや願いについて、ご意見を出し合っていましたので、内容を整理しながら、総合計画に反映していきたいと考えております。

続いて、36ページをご覧ください。審議会委員のご意見として、今年度の第1回、第2回審議会での委員の皆様からいただいたご意見を吹き出しにして、39ページまで、まとめております。前回の審議会の中で、委員の皆様からのご意見、想いを写真やイラストで表現してみてもどうかとご意見をいただきました。今回は、イラストで、イメージとしてお示ししておりますが、レイアウトやデザインなど、今後、詰めていきたいと考えております。

資料の40ページ以降につきましては、前回の審議会でご説明した内容となっておりますので割愛いたします。委員の皆様からいただいたご意見、その他、市民アンケート、市民ワークショップでいただいたご意見につきましては、この後ご説明いたします基本構想案、または今後策定いたします基本計画案の中で反映していきたいと考えております。なお、市民アンケートの結果につきましては、来週中を目途にホームページで公表する予定としております。

資料1につきましては、説明は以上でございます。

続きまして、第2次富谷市総合計画基本構想案についてご説明させていただきます。

資料2をご覧ください。こちらは、第2回審議会においてお示しいたしました基本構想案をベースに、審議会をはじめ、団体ヒアリングや市民ワークショップでいただいたご意見を踏まえ、作成したものでございます。委員の皆様からいただいたご意見の基本構想案への反映状況につきましては、資料3として配付させていただいております。会議時間の都合上、説明は割愛させていただきますが、後ほどご覧いただければと思います。また、具体的な取組へのご意見につきましては、今後、ご審議いただきます基本計画案へ反映してまいりたいと考えております。

それでは、1ページをご覧ください。(1) まちづくりの将来像でございます。将来像につきましては、前回の審議会でもお伝えいたしましたが、現計画から引き続き、「住みたくなるまち日本一 100年間

ひとが増え続けるまち」を継承することとしております。本市が、町制施行してから約100年後にあたる2060年まで、今後もより多くの方々から生活の場として選ばれるまちづくりを推進し、継続的に人口を増やし、成長し続けていくことを目指してまいります。次に、(2)といたしまして、改めて市民憲章の全文を記載しております。

続きまして、2ページをご覧ください。(3) 基本理念につきましては、市長が日頃から申し上げております「市民力」と「まちづくりは市民が主役」という想いや、審議会・団体ヒアリングなどにおいても、市民力についてご意見を多くいただいておりますことから、「市民が主役のまちづくり“市民力”を発揮して、誰もが住み良い富谷へ」といたしました。本市における市民の暮らしが生き生きと誇らしいものであるためには、「市民のために、市民と共に、市民が主役のまちづくり」を進めていくことが重要であり、市民の皆さんが持つ能力、その市民力を発揮できる場が数多く存在することで、まちが活力にあふれ、市民はもちろん、本市を訪れる人々にとっても魅力的なまちになると考えます。本市では、市民活動が活発に行われていることにより、新たな人と人との繋がりが生まれ、多様な主体による協働の取組が広がるなど、まち全体が活気づいており、その「市民力の高さ」は本市の一番の強みになっております。まちづくりの主役は市民であるという理念のもと、市民が想いを持って取り組んでいる様々な活動を、行政はしっかりと実現に向けてサポートし、新たな「市民力」を掘り起こすとともに、育み、相互に高め合いながら、その市民力を発揮できる環境の整備に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、(4)といたしまして、まちづくりの柱と基本目標でございます。まず、まちづくりの柱につきましては、現総合計画の後期基本計画において、新たな視点として盛り込んだ「子どもにやさしいまちづくり」と「持続可能なまちづくり」の考えを継承し、1つ目を「未来につながる持続可能なまちづくりの推進」とし、順番が前後いたしますが、「子どもにやさしいまち」は誰にでもやさしいまちであるという観点から、2つ目を「子どもにやさしく誰にでもやさしいまちづくりの推進」といたしました。また、令和6年3月に策定いたしました本市の都市計画マスタープランにおいて、都市の将来像・まちづくりの方針として位置付けている田園都市を3つ目の柱として「緑豊かな自然と魅力ある都市が調和した田園都市の実現」といたしました。本市が令和8年度に市制施行から10年を迎えるという次のステージに向けて、本市の強みである「市民力」を生かしながら、世代や立場を超えた多様な人々がつながる「オールとみや」の体制で将来像の実現を目指すにあたり、この3つを柱として、誰もが「住みたくなる」、そして、市民の皆さんからは「住んで良かった」、また将来にわたって「住み続けたい」と思っただけのような、サステイナブルなまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

次に、基本目標につきましては、次のページから詳しくご説明させていただきますので、3ページをご覧ください。まず、産業・観光分野の目標といたしまして、基本目標1を「想いを実現できる活力と魅力があふれるまち」といたしました。市民が身近な地域で働き、豊かな暮らしが実現できるよう、半導体産業をはじめとした製造業の企業など、魅力ある企業の誘致を積極的に展開し、市内で働きたくなる質の高い雇用の創出を図るとともに、起業・創業や農業にチャレンジしやすい環境づくりを進め、「何かを始めたい・何かを作りたい」という市民の想いを実現できるまちを目指します。また、豊かな自然環境や地域資源を生かした、富谷市ならではの観光スポットの充実や新たな特産品の開発によるブランド価値の向上を図るとともに、積極的に富谷市の魅力を発信し、市民には「住み続けたい、帰ってきたい」、また、市外の方には「また来たい、住んでみたい」と思ってもらえるような、活力と

魅力があふれるまちを目指します。関連する施策といたしましては、右の枠内に記載しております、企業誘致・雇用、起業・創業・スタートアップ、商工業振興、農業振興、地域振興、観光振興としております。

続きまして、都市基盤分野の目標といたしまして、基本目標2を「快適で住み心地の良さを実感できる田園都市」といたしました。本市は豊かな自然の中に、生活環境の整った良好な市街地を形成することで、多くの人が豊かに暮らせる田園都市構造を形成してまいりました。緑豊かな環境と利便性を併せ持っていることが本市の大きな特徴であり、このような特徴を大切にするため、今後も自然を守り、育むとともに、市街地の魅力向上を図ってまいります。また、人口減少や少子・高齢化の進行など、今後も環境は大きく変化していくことから、公共交通の利便性向上やDXの推進などにより、既存の都市基盤の更なる充実を図り、市民の皆さんが快適で住み心地の良さを実感できる富谷らしい田園都市を目指します。関連する施策といたしましては、土地利用、公共交通、道路、公園、住環境、上下水道としております。

続きまして、4ページをご覧ください。こども・子育て・学校教育分野の目標といたしまして、基本目標3を「次代を担うこどもたちをみんなで育むまち」といたしました。富谷の大切な宝・財産であるこどもたちが幸せでいることや、あふれる笑顔には、多くの人を幸せにする力があります。すべてのこどもたちが幸せを感じ、夢と希望をもって健やかに成長し、生活できるよう、市全体でこどもたちを支えるとともに、こどもの目線を大切にし、こどもの意見が反映される「子どもにやさしいまちづくり」を引き続き推進してまいります。また、妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援と子育て環境の充実を図り、誰もが働きながら安心してこどもを産み育てられる「子育て世帯に選ばれるまち」を目指すとともに、こどもたちが安心して過ごせる教育環境の中で、本市の特徴である学び合いの学習や調べる学習の推進、ICTの活用や国際理解教育など、時代に即した学びや社会で役立つ豊かな人間性・社会性を身に付けられるよう、家庭、地域、学校、行政が連携した学校づくりや多様な学びの場の提供に取り組み、次代を担うこどもたちをみんなで育むまちを目指します。関連する施策といたしましては、子どもにやさしいまちづくり、子育て環境、子育て支援、青少年健全育成、教育環境、教育・学びとしております。

続きまして、健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化分野の目標といたしまして、基本目標4を「誰もが普段の暮らしに幸せを感じながら生き生きと暮らせるまち」といたしました。こどもから高齢者まで、誰もが心と体の健康、必要に応じた医療・介護・生活への支援などを受けることができ、将来にわたって住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせるよう、市民同士が繋がり、互いに支え合いながら「みんなにやさしい、愛のある地域共生社会づくり」に取り組んでまいります。また、幸せを実感するためには、自分の居場所があることや、自分の力を発揮できる場所があることが重要であることから、誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会や世代間が交流する機会などを充実し、人と人との繋がりを育むとともに、学びの成果が地域の活性化につながる、学びと活動の好循環を生み出すことで、誰もが普段の暮らしに幸せを感じながら生き生きと暮らせるまちを目指します。関連する施策といたしましては、地域共生、健康・保健、高齢者支援、障がい者支援、医療、生涯学習、スポーツ、芸術・文化としております。

続きまして、5ページをご覧ください。防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化分野の目標といたしまして、基本目標5を「安全安心で誰もが暮らしやすいまち」といたしました。近年、多発している大規模災害や巧妙化する犯罪などから市民一人ひとりの生命と暮らしを守るため、市民・地域・

行政・関係機関が連携して防災対策の充実や防犯体制の強化を図り、安全・安心なまちを目指します。また、年齢・性別・国籍などにかかわらず、互いの人権や多様性を尊重し、支え合い、共に暮らすことができる共生の地域づくりと、市民一人ひとりがまちづくりの担い手としてその個性と能力を発揮できる環境づくりに取り組むことにより、誰もが市に誇りや愛着を感じる暮らしやすいまちを目指します。関連する施策といたしましては、防災、救急・消防、防犯・交通安全・消費生活、人権尊重・男女共同、多文化共生としております。

続きまして、自然環境・ゼロカーボン・環境衛生分野の目標といたしまして、基本目標6を「未来をつなぐ環境にやさしいまち」といたしました。本市の豊かな自然環境や美しい田園風景を守り、都市機能と調和した、季節の彩りを身近に感じることができる富谷らしい田園都市を目指します。良好な環境を次世代に引き継ぐため、市民一人ひとりの地球環境問題に対する意識を育み、自然や文化、生物多様性の理解を深め、市民・企業などあらゆる主体が手を取り合って、ごみの排出抑制・再資源化や再生可能エネルギーの導入、次世代自動車の普及など、環境保全やゼロカーボンの実現に向けて取り組むことにより、環境負荷の少ない循環型社会を未来へ繋ぐ、環境にやさしいまちを目指します。また、再生可能エネルギーや水素エネルギーなど、地域で必要なエネルギーを地域で生み出し、地域で活用する「エネルギーの地産地消」の取組についても推進してまいります。関連する施策といたしましては、自然環境、ゼロカーボン、エネルギーの地産地消、ごみ対策、生活環境としております。

続きまして、6ページをご覧ください。地域活動・市民協働・広報広聴・行財政経営分野の目標といたしまして、基本目標7を「協働でつくる持続可能なまち」といたしました。市民一人ひとりが市への愛着や地域への誇りを持ち、地域の課題を自分ごととして捉え、主体的に活動することができる「市民が主役」のまちを目指すとともに、少子高齢化や災害発生時などの社会の変化に柔軟に対応していくため、あらゆる分野で市民や団体、事業者、地域など世代や立場を超えた多様な人々が繋がり、課題解決のために協力し合う、協働でつくる持続可能なまちを目指してまいります。また、市民が必要としている情報や、市が知ってほしい情報を効果的に伝えるなど、開かれた市政を推進するとともに、市民の声を聴き、市民の意見を施策に反映させる市政運営を推進し、併せて、複雑・多様化する行政ニーズに的確に対応するため、限られた経営資源を効率よく有効に活用した施策の実施や変化に柔軟に対応できる組織体制の構築に取り組むなど、持続可能で安定した行政サービスを提供してまいります。

説明は以上となりますが、基本構想の方向性をはじめ、基本目標のフレーズや文面の表現などについてご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(風見会長)

はい、ご説明ありがとうございました。基本構想ということで、とても大きな話ではありますが、その中に前回の審議会を踏まえて富谷市らしいキーワードを入れていただいているかと思います。冒頭にも申し上げましたサステナビリティとレジリエンスとウェルビーイングの部分が政策的には根幹になっていると思いますし、それを実現するのが田園都市のモデルではないかと思っています。それをどのように実装していくのかということがこれからの重要なテーマになろうかと思いますが、まずはまちづくり全般として、将来像や基本理念、基本目標を考えた時に、これからの進むべき方向としてこの基本構想でよろしいのかということをこれから審議してまいります。

いつものとおり、高橋委員から時計回りでご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い

いたします。また、基本構想案だけではなく市民ニーズ調査や現状の課題、市民ワークショップの内容等も含めての質問でも結構です。こういう部分を強調したいなど忌憚なくご意見を頂戴したいと思います。それでは、高橋委員お願いします。

(高橋委員)

宮城大学の高橋でございます。基本構想の資料を事前に拝見しました。私の方で取り組んでいる研究の中で、地域への愛着を持っているということが人々の暮らしにどのように影響するかというところを調べたりしておりました。その中で、地域への愛着を持っているということは、その地域で暮らすということへの活力に繋がることや、そこで自分で自分らしく生きていくということをベースにして、そういう想いを持っているということが健康にも繋がるというようなところを確認していたところです。最初に風見会長からまちづくりに重要な3つの言葉をご説明していただきました。この言葉の他にも地域づくりや公衆衛生の分野の中ではソーシャルキャピタルということもかなり言われていると思います。ソーシャルキャピタルというのは社会資本ということで、お互い様ということで地域の中で支えたり、支えられたりということであったり、あとは信頼やネットワークというような繋がりがあがあるということが、その地域で暮らしていく安心にも繋がるというようなことと言われております。そのようなことを大事にしながら今まで研究に取り組んできたなかで、今回この基本構想を見せていただいた時に、本当にその要素がふんだんに盛り込まれているなと感じさせていただきました。100年間ひとが増え続けるというところで、まず大事になってくるのは、やはりそこでの暮らしを続けていきたいと思う気持ちが根底になってくると思います。豊かな地域ではお子さんが親の姿を見て、そこで暮らしたいと思うという傾向があるというようなことも言われています。お子さん達がここで住みたいと思ってもらうためには、親御さんたちも豊かな暮らしができているということが非常に大事になってくるので、お子さん達のことも考え、そして地域で暮らす地域の方々の暮らしが豊かになっていくということを基本構想に据えた計画というものが必要になるかと思います。今は基本構想の段階なので大きなレベルではありますが、それを具体的に、では富谷ではどういうことをしていくかという活動に繋げていっていただくことで、主体的な取組として施策が実現に繋がっていくのではないかと思います。自分らしく暮らせる場所というところでは、豊かな地域とか、ここに住みたいという愛着を持つということにも繋がっていくと思いますので、豊かな地域の良さを生かして、さらに住みたくなくていく地域づくりをしていくということが非常に大事だと思っております。地域の課題をどのように解決していくかというところはなかなか難しいところがあり、具体的には地域の様々な整備というところも必要になってくると思いますので、地域のインフラ整備を含めての地域づくりということを考えていただければよいかと思います。まとまりがなかったのですが、皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。高橋委員は看護が専門ですけれども、今私も感じたのは、居場所と自分の力を発揮できる場所があるということは、富谷市をよく表しているのではないかということです。おそらく皆さんがそれを実行できる期待感ということが地域への愛着を生んでいるのではないかなと思います。また、心と身体は一体で、長寿には心が大事ですので、そういうことを含めて本当に満足感のある地域にしていって、地域を本当に愛する人たちを作ることだと

思います。これは総合的な施策だと思いますので、その言葉をうまく実行するための施策づくりを事務局でしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

はい、ありがとうございました。それでは阿部委員、よろしくお願いいたします。

(阿部委員)

こんにちは、くろかわ商工会富谷支部長の阿部でございます。よろしくお願いいたします。資料は事前にいただいていたので目を通しておりましたけれども、今、基本構想案ということでご説明いただきました。今、人口が5万2千人に増えまして、その中で先ほど風見会長から幸福度の話がありましたけれども、住んでいて幸せを感じる場所は人それぞれ違うと思います。私の地元は富谷市で、住んでいるところは皆さんご存じの「とみやど」の近くの新町地区ですけれども、その200メートル先の空き家になっていた場所に新しい人が住むといったような、旧地区である新町地区にも新しく引っ越して来る方がいらっしゃいます。一方で、成田地区ですとか明石台地区、私も商工会の関係や自分の商売の関係でこの地区に行ったりしますけれども、坪単価が高いところにも皆さん住まわられていますし、やはり若い方が多く移り住んでいます。

そういった中で、この基本構想の基本目標1から基本目標7までは非常に整っているという表現をしますが、これを全部やるとなると市民力、皆さんや若い人たちの力も非常に重要になります。そのためには、これは前回も同じことを言ったかもしれませんが、地域の会合などでしっかりとこのような方針があるのだということを、皆さんにも理解していただく必要があるのではないかと思います。例えば、小さい話ですけれども、ゴミの関係、衛生面でのゴミ対策といった1つであっても一人ひとりのマナーによることもあるかと思いますので、市民の皆さん一人ひとりにしっかりと理解していただく必要があるかと思えます。富谷市に住むと幸せになるという構想があつて、行政でもこうやって取り組まれているということを市民の皆さんに理解していただく場面がもっとあれば、市民力もアップしていくのではないかなと思うところでございます。私からは少し具体的なところでお話させていただきました。以上でございます。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。ウェルビーイングは幸福感と訳してよいかと思います。まちづくりの究極形は幸せを感じるまちづくりで、それをどのように分解するかということですので、若生市長もそこに取り組まれているかと思いますし、そこがやはり一番大事で、では幸福感をどう作るか、その部分の施策を皆さんで知恵を出していくことが必要かと思います。本当にこの点は市民力の高さが垣間見られるところだと思いますが、逆に言えばそれを受け取る側も市民力をこれからどのように育てていくのかということと対だと思います。商工会関係で言えば地域の皆さんの賑わいであり、地域の愛着の象徴だと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。それでは、清野委員お願いします。

(清野委員)

七十七銀行の清野でございます。基本目標を見てみるとバランスが良く、このような形で良いのではないかと思ったところですが、やはり私の立場から申し上げますと、産業の分野の企業誘致であったりといったところについては今後の動向に期待していますし、我々も参画していかななくてはならない

と思っています。そのなかで、人材の確保、雇用の確保というところは今後の人口の部分でも非常に影響が大きいところかと思いましたので、そこはしっかりサポートできるところはしていきたいと思っています。それから、最近テレビで「野球やらないか」というフレーズがあるCMのなかで、日本のこどもの幸福度ランキングが非常に低い順位で出ているものを見ました。私も親ですが、「子どもにやさしいまちづくり」の中で、そういったところを優しくサポートされることは非常に良いと思います。が、実際のこどもが感じる幸福度とはどんなものだろうかと、そのCMを見ながらふと思ったところです。今、審議委員をやらせてもらっているなかで実際はどうかという質問が、この場にふさわしい内容か分かりませんが、実際のところこどもたちがどう感じているかを理解することが非常に大事なところかと思います。丁重にサポートしている富谷市の中でも、サポートを受けているこどもの側の方も考えられるとずっとよくなるのではと思っています。以上です。

（風見会長）

はい、ありがとうございます。やはり実感ということだと思います。しかもこどもたちがどう思っているのかということだと思います。中学生のお二人にはオブザーバーとして最後にご意見を伺いたいと思います。こどもたちがどう感じているのか、最後に発言をしていただきますので考えていただいてよろしいですか。ありがとうございます。それでは石井委員お願いします。

（石井委員）

はい、ありがとうございます。前回の審議会では私の方からは、富谷らしさという尖った部分がもっとあった方がよいのではという指摘をさせていただきました。先日、最終の資料が送られてきましたが、2ページの本市の将来像という図のところに、前回の資料では明記されていなかった「まちづくりの柱」が明記されておりまして、今回これが入ったことによってすごく富谷らしさが出て、非常に分かりやすくなったと感じております。皆様は富谷市に住んでいらっしゃるって、私は仙台市から来ておりますけれども、まさにこの部屋の窓から見えるこの光景が富谷らしさであると実は思っております。私は仙台市役所の会議にも出席しておりますが、仙台市はこういう光景ではないのです。いつも、私はこちら側の席に座っておりますので、窓の向こう側の緑が見え、自然と市役所の建物のように、緑豊かな自然と魅力ある都市が調和した田園都市が富谷市の光景であると勝手に思っており、非常に心が落ち着きます。こういった部分がこの基本理念であり、「まちづくりの柱」のなかに明記されたことは大変よいことだと思っております。そういった意味では、前回の審議会の議論がきれいにまとめられてよかったと感じております。

もう一つは表現がやさしく書いてあると感じます。どうしても行政の文章は難しく書かれていたりするのですが、今日は中学生が二人来ていますけれども、おそらく中学生の方が見ても分かりやすい言葉で作ってあると思います。これは非常に大事で、「子どもにやさしいまちづくり」と言いながら、こどもが見ても分からないような基本理念が書いてあるとしたら、それは全然やさしくない訳ですので、3ページ以降の基本目標のところの言葉が難しそうであれば、もう少し検討する必要があるのではないかという気がします。最後は非常に細かい話で恐縮ですが、2ページの「こども」という表現が漢字のところとひらがなのところがありますので、統一した方がよろしいかと思います。以上でござ

(風見会長)

はい、ありがとうございました。全くそのとおりです。こうした美しい自然の中で会議ができるということが素晴らしいことであります。私も若生市長にはこの庁舎に訪れるたびに景色が素晴らしいと申し上げておりますが、本当に素晴らしい高台にあって、他にはなかなかないと思います。ただし、こうした風景を守るとは結構大きな決意がいることになりますので、そういう意味では皆さんにこれが大切だと思っていただかないと残りませんので、市長にもしっかりと伝えて、市長にはしっかり守っていただくことが大事だと思います。私もこのまちづくりの柱に入って大変分かりやすくなって、いろんなものが繋がることによって、骨格がはつきりしてきたと思います。ありがとうございます。はい、それでは菅原委員お願いします。

(菅原委員)

富谷市社会福祉協議会の菅原と申します。お願いいたします。私は、前回、まちづくりの柱と基本目標の2ページの健康のところで見聞をさせていただきましたが、それが今回こういった表現になっていたのもとてもよかったと思ったところです。そして、まちづくりの柱についても、とてもバランスが取れているなと思ったところです。4ページの基本目標3は、「子どもにやさしいまちづくり」を富谷市は推進しておりますけれども、この中で市全体として子どもたちを支えるとともにこどもの目線を大切に、こどもの意見が反映するといった記載があり、まさしく「子どもにやさしいまちづくりの推進」とはこれなのかなと思いました。また、この中に含まれていることだとは思いますが、子どもたちはすごく大きな力を持っていると思います。子どもたち一人ひとりが色々な考えを持っていて、それをディスカッションしたりすることで、大きな力になってくると私も授業を通じて思っておりまして、守られるだけとか支えるだけではなくて、自分たちがそれを発信して、一人の市民として富谷市に貢献するという力があって、その年代によって違うとは思いますが、若い子どもから18歳になるまでの児童・生徒までみんなに、そういった可能性がすごくあるのではないかと思います。富谷市の教育はそれに通じているのではないかと授業を通じて感じているところでした。

それから、基本目標4ですけれども、互いに支え合いながらみんなにやさしい愛のある地域共生社会づくりに取り組むという記載があり、まさにこれから目指すべきところだと思います。実は今日、大郷町の方で社会福祉協議会の研修会がありまして、その支え合うということとは何かというような話題についての研修がありました。何かシンポジウムなどをしたとしても、支える側の「私はこんな形で支えています。こういう仕組みで支えています。」ということがクローズアップされるのですが、支えられる側の方は意外と何も準備ができていないということがあられるのではないかと、例えば、「何か困っていることがあって『助けて』と大きい声であなたは言えますか」と聞かれた時に、助けてと言える人は本当に少ないのではないかと話でした。困っている人がいたら助けたいと思う人は、実行に移すかどうかは別としても100人いたら90人くらいはいるけれども、助けてと人にはなかなか言えない、そういった人が多いということが実際にはあるといった話がありまして、それが支える側と支えられる側の双方があって支え合いになるような、そういう話があったところでありました。その中の支え合いながらというような仕組みにあまりとらわれずに、支えられることが必要になった時に自分で「助けて」と言いながらも、その土地で暮らしていけるようにすることが、とても重要なのではないかと思います。一人ひとりということもありますけれども、地域性もあり、昔から人が住んでいる町内会と新しく出来てきた町内会では、色々と土壌が違うといえますか、当たり前のことですが

地域性が違うと思います。大きく発信できる地域もあれば、発信はしていなくても実は助けを求めている地域もあるのではないかと、集う場を作りたいと思ってもできない状態にある地域があるのではないかと。もしかしたら「助けて」と言ったら違う地域から助けを得て居場所づくりができるかもしれないとか、そういったことを本日の説明などを聞いて考えたところでした。それが誰もが普段の暮らしに幸せを感じながら生き生きと暮らせるまちに通じるのではないかと、発信できない人に対しても取りこぼしなく、何かできることがあれば良いなと思いながら聞いていましたが、全体的に目標の中身というものは整えられていて、とてもよかったと思っています。以上です。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。大変重要なテーマであると思いました。私が感じるのは、先ほどの居場所と自分の力を表す場、つまり自分自身を理解していただける場所があるかということが重要で、フランス語ではラポールと言いますが、信頼関係、関係性、架け橋とも訳しますけれども、そういった部分が、日本社会が近代化の中で失った大きな部分でありまして、新しい若い世代がそうした新しい地域において、昔で言えば相互扶助、今で言えば自助、共助、そういうものを含めて共助の仕組みが、やはりこれからもっと必要なのだろーと思います。そういう意味では、暮らしやすさとか、居心地の良さ、幸せ感の根底にあるというのはその部分の安心感だと思いますので、どのように施策として展開していくか、その点を庁内でご議論いただければと思います。ありがとうございます。それでは、富田委員をお願いします。

(富田委員)

今回、資料を送っていただきありがとうございます。事前に資料を読ませていただいて感じたことについてお話ができたと思います。今回、まちづくりの柱として田園都市という記載がありました。以前、風見会長が会議でおっしゃっていましたが、都市の生活の利便性と田園生活の魅力を兼ね備えていて自然との共生であるとか、食、住、近接、住人参加型で運営されるまちづくりといったことは富谷市にすごく合っていると思っていて、この概念を取り入れたということは素晴らしいなと思っています。私一個人としても本当に大切なことだと思っていました。この基本理念とまちづくりの柱という部分は、世代を超えた多様な人々が繋がり合って市民力を発揮しましょうと。そして、人にやさしい自然と共生した循環システムづくりをしましょうというこの理念というものは、おそらくどの世代にもやさしさみたいなものを感じることができると思いますし、理念として本当に素晴らしいと思っています。中学生もお年寄りも皆さんが理解していただけるものではないかと思えますし、この実現に向けてブレイクダウンして目標を立てていくことになるかと思えます。基本目標も見させていただいて思ったことは、この文章も本当に素晴らしいし、理念、目標として立てていくことは大切ですが、できることであれば施策の中にデジタル活用を入れていってほしいと思っています。私たちはコロナ禍を経て、コロナのネガティブな面を沢山経験してきましたけれども、デジタルという活用の部分でも、やったことがなかったことをこの5年間で経験してきました。デジタルが疎いとか、馴染みがないと思っていても強制的にやらされてきたと思います。そういったことがこれからは当たり前になってきて、デジタルもどんどん活用していく、それこそが地方創生なり、市民の皆さんの力になっていくと思いますし、それを実現することで一歩でも二歩でも先に行く自治体を実現していってほしいと思っています。施策の部分については、今後どうなっていくのが楽し

みですし、色々と未来のこと、今までの経験なども踏まえて理想の目標を立てていただきたいと思います。まずは全体としての意見でした。

一つだけ質問させてください。7つの基本目標に目を通しましたけれども、基本目標1の産業・観光分野の最初の一文がすごく攻めているなと思っています。何かというと、「半導体をはじめとした製造業を、質の高い雇用を創出することを目的として誘致する」という部分に少し疑問を持っていました、本当にもしやさしいまちづくりを未来の姿にするのであれば、どんな仕事に就くかということはその人が持っている仕事のポテンシャルやバックグラウンド、スキルに応じての多様であって当然だと思います。企業を誘致することはもちろん必要ですけれども、もっと目指すところが多様な企業であるとか、個人として色々な選択肢を持てるような多様な雇用機会の創出を目指す、この富谷市には色々な産業があって、それが複合化してイノベーションが起きているという姿が目指すところだと思っています。半導体もすごく活気のある産業ですし、私が思うデジタルの部分でも絶対に必要な要素なのですが、それでもすごく大きなものをバンと持ってくるよりも、色々なメニューがあることこそ、みんなにやさしい、その人に合ったまちづくりを進めることではないかと思っています。これが基本目標1に掲げられている理由があれば教えていただきたいと思います。以上です。

(風見会長)

はい、それでは、まず今のご質問についてどうでしょうか。書き方の問題であれば関係部局、むしろ政策的な意図ということであれば市長の方からお願いいたします。

(若生市長)

はい、ありがとうございます。とてもすばらしい視点だと思っています。今、どうしても高屋敷西工業団地、この一帯が半導体関係の企業がどんどん立地して勢いがついているので、全く無意識に「半導体企業をはじめ」と文章に入ってしまったと思いますが、只今ご指摘をいただき、まさにそのとおりだとすごく感じました。この表現は今お話しいただいたことを踏まえて変更したいと思います。我々、日常的に今半導体の企業がどんどん集積しているという、その空気にすっかり染まってしまうことが出てしまったと思いますので、本当に素晴らしいご意見をいただきありがとうございます。決して半導体関係に特化するというものではありません。ありがとうございます。

(風見会長)

はい、私も今の市長のご意見を伺って安心したところですが、市長がおっしゃった通りで、最近だと日本全国、この半導体の風が吹き荒れていますので、地域としてどのように取り組むかについてはしっかりと戦略と慎重さが必要です。若生市長はそれをよく分かっておられると思いますが、ただ書き方としてこれが最初の一文に出てしまっています。基本目標1は「想いを実現できる活力と魅力あふれるまち」とありますので、それと比べるとこの一文には違和感があるのかもしれないと私も思います。本日の冒頭で申し上げたとおり、富谷市は地域の資源や市民力を生かして、しっかりと粘り強く産業を興していける場所であると思います。ただし、外からの色々な要望ということもあると思いますので、それをどう捉えるのか、文章の表現として少し変えていただければと思います。想いは市長も一緒だということですので。そういう意味では、私も懸念しているところとしては、富谷市のブランド力を高めることが特に経産部にとって大事なところではありますが、そのブラ

ンド力というものは出来上がりつつあると思います。市民力を生かした地域発の「とみやど」のような場所や地域に根差した特産品といった部分はまだまだテコ入れしなくてはならないところではありますが、富谷市らしい富谷市のスケール感に合った、そういった地域から沸き立つような力、それを上手く表現していただければと思っておりましたので、むしろこの一文の後半の所は好意的に見ておりました。何かを始めたい、何かを作りたいという意識、アントレプレナーシップがしっかりと伸びるようなところも富谷市らしい表現だと思います。これは市長をはじめ富谷塾を頑張ってもらって、その卒業生が活躍されている、そのあたりをしっかりとこの中に表現していただく。もちろん半導体のことは出てくるとは思いますけれど、富谷市のブランドを作るためということが分かる表現が良いのではないかと思います。

それから、田園都市についてもご発言いただきありがとうございます。私は前回の総合計画を作る審議会の会長をお受けした時に、後期計画の策定にあたって田園都市の潮流というものを皆さんに少しでも感じていただきたいと思っておりました。今回、若生市長に陣頭指揮をとっていただいて、市政の最重要計画である総合計画にここまで田園都市についてしっかりと打ち出されていますが、そのような自治体はまだありませんので、そういう意味では田園都市政策のトップランナーになっていると思います。また、先ほどありましたデジタルですけれども、今、国家政策としてデジタル田園都市国家構想があり、また富谷市として田園都市を掲げた時には当然デジタルも含めてということになるかと思います。基本目標2の施策のところDXの推進が入っておりまして、これだけの文章におさめるためにこうなったのだと思いますが、この部分をもう少し書き込んでいただくか、あるいは他にもGX、カーボンニュートラルを含めて環境のことが謳われていますが、DXの部分は確かに若干弱い気がしますので、その部分も改めて見ていただけると大変ありがたいです。そういう意味で、その部分は事務局でももう少し書き加える作業をお願いしたいと私からも感じておりました。

田園都市は20世紀初頭にエベネザー・ハワード氏が提案しておりますが、デジタル社会が訪れたことによって初めてそれを実現できるチャンスがやって来ております。地方・地域にも住める時代が来ておりますので、富谷市が国家政策の中でもモデルになるように、ぜひ市長には牽引していただければと思いますので、よろしくお願いします。はい、ありがとうございます。それでは、村上委員お願いします。

(村上委員)

村上です。よろしくお願いします。いっぱいありすぎて、頭がまとまらないというのが本音なのですが、私も少し引っかかっていたところは今、富田さんが発言してくださったり、フォローを入れたりしていただきました。「富谷に住んでいると幸せになるよ」と言いたいなと直感的に思った言葉でして、住みたくなる、住み続けたいまち、イコールそこには幸せがあると話の流れの中で感じました。そして何より、7つの大きな基本目標は全てすばらしいと思いましたが、それ以上に、市民のワークショップの声を確認して、まさにこの声を元にやっていけたらいいのではないかと思います。色々な面から沢山の市民の皆さんが発言してくださっていて市民力が高いと思いましたし、ここ富谷を愛している人たちが沢山住んでいると率直に感じました。まちづくりは色々な地域の課題であったり、大きな目標があって進められていきますけれども、まちづくりの柱として自然との融合であったり、人間の幸福感であったり、風見会長がおっしゃった市民や地域資源の有効活用ということを踏まえてほしいと思います。私は、大亀山森林公園の活性化に半分くらい力を注いでいますが、森の良さ

をすごく感じていまして、森を訪れる人の声であるとか、風や季節感といった流れを感じて、森はストレスがない、森に行くとストレスが解消できると実感しています。森やこの庁舎から見える景色もまさにそうなのですが、富谷市の素晴らしい環境を守っていければと更に強く思っております。心と身体の実験しながら、お客様との会話をしながらそのように感じているところです。森林浴の効果などを利用して心と身体を整えるため、こどもから高齢の方々までみんながそこに来るという居場所づくりも大事だと考えています。また、森は企業と繋がったり、森林や農業など色々なものを巡ったりしていて、富谷市にとっても、とても大事な場所になるのではないかと感じています。また、そこに住む生物や植物にも繋がっていると感じています。まとまらないですが、現在進行中で取り組んでおりますので、よろしくお願いいたします。

(風見会長)

はい、ありがとうございました。皆さんに気持ちが伝わったと思います。村上委員は沢山の活動をされていて広がる一方かと思いますが。はい、続けてどうぞ。

(村上委員)

DXに関してですが、先日、たまたま東京の企業と宮城県の方が来られて、大亀山森林公園の各地のCO2濃度がどれくらいあるのかを測っていきました。CO2を確認して、それを使ってデジタル化することで、地図の中でピット場所を選択すると、例えば大亀山森林公園のここはCO2の濃度がいくらであるとか、仙台市の街中は460くらいでも大亀山森林公園に来ると400を切るか切らないか位のとても良い自然環境であるといったことが分かる、そういうものをデジタル化し、データをまとめてくれている感じでしたので、それもまた大亀山森林公園の魅力になるのではと思っています。

(風見会長)

今のお話について中学生のお二人にも分かるように言いますと、脱炭素で森の持っているCO2吸収力を算定していくという流れがあります。富谷市の森林ではそれを測る仕組みがまだ固定化されていないのですが、そういう意味では森を守ると環境にも良い、市の発展にも役立つという政策がこれから作られていきます。若生市長も森林再生をいの一番にあげられておりますし、先日は、市の関係部長に集まっていたいた円卓会議の中でもこの議論を行っておりまして、来年度基本計画を作っていく中で重点プロジェクトとして8大事業あるいは10大事業として掲げていただきたいということで勉強していただいております。

また、素晴らしいと思ったのは、このワークショップの言葉での富谷市の皆さんの声が具体的であることです。これはやはり市民力の高さを表していて、他の自治体ではこんなに具体的ではないです。皆さんの願いとして書かれていることも多く、これは自分が行っていることや、目の前にやろうとしていることが沢山あるということかと思っておりますので、富谷市は幸せなまちであると思います。村上委員がおっしゃったとおり、それぞれがやりたいことをちゃんとできる、そういった路線は確実に育ってきています。みんなで色々とやりたいことを実現するためには、村上委員もぜひ仲間をどんどん横に広げていただいて、また、富谷塾やプレミアムスクールもありますので、そこで色々な地域の起業家を育てるということが次の段階になるかと思えます。また、ワークショップの意見として、女性の起業家支援、マイクロビジネスの推進についても書かれていて驚きました。マイクロビジネスは、か

つてムハマド・ユヌス氏がグラミン銀行を設立し、貧困層の女性に小規模な融資を提供するマイクロクレジットから発展してきたものですが、女性の自立ということ、その点でも富谷市は女性がすごく中心になって活躍してきていますし、女性の起業環境を整えていくことも大事なのではないかと村上委員を見ていて感じました。そんなところで、これからは特に自然との関係、自然環境がさらに産業と融合していきますので、経産部局でしっかりと取り組んでいただくことをお願いしたいと思います。では、小松委員お願いします。

(小松委員)

はい、小松と申します。前回、色々と意見させていただいた内容を全て基本目標1の中に入れていただいて本当にありがたいと思っておりました。ありがとうございます。何かを始めたい、何かを作りたいという意味では、私どもの活動の中で、4月から新規就農者が3人ほど活動を始めることができるようになり、農地も守ることができるようになりました。これからさらにそういった人たちを入れて、高齢化が進んでいる農家の人たちのためにも、農地を無駄なく荒らさずに取り組んでいきたいと思っていますところなんです。私は、昨年「とみやど」でファーマーズマーケットの一員として活動させていただいて、今年は5月から開始することになりました。その準備で、色々と打ち合わせをやっていく中で、もともと富谷市の農業者を助けたいということから始まったファーマーズマーケットなのですが、なかなか特産品の話になると難しく、富谷市にはブルーベリーがありますが、ブルーベリーの商品はマンネリ化していることもありますし、せっかくシャインマスカットや野菜もあるのですが、なかなか富谷市に来てもらってお土産として持たせるものがない、買ってもらえるものがないということが話に出てしまいます。作る側も頑張らなくてはいけないと思うのですが、せっかく「とみやど」という観光スポットがあるので、ただそこで食べて帰ってもらうだけではなく、そこに来れば富谷市のものが分かるような形にしたいという話は毎回出てきておりますので、そういった特産品の開発にもう少し力を入れていきたいと思っています。あとは、やはり交通の便になりますが、どうしても車がないと来ることができないということも一つありまして、もう少し車で来る人たちのために駐車場を増やしてほしいという話であるとか、市長がおっしゃっていた都市型ローブウェイもすごくいいねという話が出ていました。そうすればもっと「とみやど」に人が来るようになって、富谷市の観光としてもすごくいいと思いますし、そのためにも今からでも特産品の開発を手掛けていきたいし、富谷市にも取り組んでももらいたいと思っておりますので、そのあたりをよろしくお願いしたいと思います。以上です。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。農業を大事にしなければならない時代が来ているので、そこは政策の中でもしっかりと取り組んでいただけたと思います。公共交通機関に関しては、立地適正化とはコンパクト&ネットワークになりますが、ネットワークが上手く繋がっていくと富谷市の魅力として色々な良いストーリーができそうだと思いますので、その部分を一緒に頑張ってください、物語が生まれるようなまちづくりを行っていただきたいですし、特に農業はしっかりと大事にしていきたいと思っています。ありがとうございます。それでは、増田委員お願いします。

(増田委員)

増田です。先ほど、菅原委員がおっしゃった意見を聞いていて少し思ったことがありまして、こどもたちの幸福度世界一の国を視察しに行った方が、現地の学校を案内してもらった時に「あなたは自立とはどういうことだと思いますか」と質問され、その方は「他の方に迷惑をかけないこと」と答えたら「だから日本人はダメなんだ。自立とは『助けて』と言えることだ」とその学校の校長先生がおっしゃったということです。まさしく、「ちょっと今大変なので助けて」と言える、「なんだ、早く言ってくればよかったのに」という関係性ができているということがすごく大事なのだろうと思いました。そういう意味では、基本目標4に市の政策でありながらも「愛のある」という言葉を入れてくださったことは、私はとても画期的なことだと思います。ただ、愛の解釈なのですが、いつも挨拶もしないような人から突然「助けて」と言われても、やはりそこは人間なので「なぜ」とは思ってしまうと思います。愛は、普段の行動であるとか、関係性が大事だと思います。ここに「愛がある」と入れていただいたことをこれから具体的なものに落とし込んでいく時に、愛があるとはどういうことだろうということを一人ひとりが真剣に考えながら政策を作っていくだけでいいと思いました。

それから、市民ワークショップに3回参加して、2回目と3回目の時に富谷高校の同じ男子生徒と一緒にだったのですが、毎回最後に「すごく楽しかった。先生に声を掛けてもらって参加してよかった」と言っていました。3回目の時には、最後なので発表してと言って、発表をしてもらったらすごくすばらしくて、私たちもビックリしたのですが、その男子生徒が最後にこのワークショップを企画してくださった皆さんに感謝しますと感謝の言葉を述べていました。こういう場を作ってもらった、自分たちの意見を真剣に聞いてもらったということが、その意見が反映される、反映されないというのは二の次としても、こういった場があるということがすごく大事なのではないかと、男子生徒の生き生きとした顔を見ながら思ったところです。本当に一部の生徒の参加だったと思いますけれども、出来ることなら「こんなに良かったよと学校に帰ってからみんなに伝えて」と言えばよかったと思っていますし、単発で終わらず、少しでも繋がっていくような仕組みづくりをしていくと、もっと広がっていくのではないかと感じました。その男子生徒は、「でも僕は今後富谷市を出ます」と言っていたのですが、「でも子育てがしやすいまちだと思ったら帰ってくるかもしれない」とも言っていました。私の娘も2人とも富谷市を出たのですが、2人とも「離れてみて富谷市がいかにかに良いのかが良く分かる」と言っていました。私は、一度富谷市を出てもよいと思います。他所を知って、その上で帰ってくることが一番強いと思いますし、富谷市しか知らないのではなく、他も経験してみるということが大事なのではないかと思っています。外に出ていった上であえてまた富谷市に戻ってきたいと思えるような内容の7つの基本目標になっていると思いますので、これを作ってください、感謝しております。ただ、1つ気になったこととしては、目標の言葉はすごくよいと思うのですが、その後の文章が少し長いと思います。今ある文章1つを2つくらいのセンテンスに分けてよいのではないかと思います。主語と述語がパッと頭の中で繋がるような文章にして、短めに表現していかないと、主語を読んでいるうちに、何だか迷路に入ってしまうような表現は、とてももったいないと思います。よく読むとどれも大事なことが書いてありますので、短くセンテンスを区切る工夫をしていただくとよいと思いました。以上です。

(風見会長)

はい、ありがとうございました。私も基本目標の中にある「愛のある地域共生社会づくり」という

言葉はすばらしいと思いましたし、今までの議論を受け取っていただけていると感じました。今日聞いていると、もしかしたら「愛と感謝のある共生のまちづくり」でもよいのかもしれません、愛と感謝は一对だと思いますが、その部分で日本は倫理教育や道徳教育をそこまで深くやらなくなりましたけれども、日本人の根源的な部分として自然から学ぶ倫理教育があったのではないのかという説が出ております。私は、毎年恒例でデンマークに行っておりますけれども、デンマーク人が一番大事にしているのは自由と自立と平和なのですが、それを実現するために民主主義教育をしっかりと学んでいます。自由教育と民主教育がすごく大事でありまして、そういった意味では自分が主体的に関わってそれを守っていくということで、基本目標7にある「協働でつくる持続可能なまち」は、実はもっと重いテーマであって、その部分は基本目標4とも繋がっていくと感じました。増田委員がおっしゃっていた高校生が、ぜひ富谷市に戻ってきてくれるように、1回富谷市から出ることは確かに良いことと思えますが、各自治体で子育てやUターン、Iターンなどに取り組んでいて、最後には選んで戻ってきていただけるまちといった表現をされている自治体もありますので、富谷市もそうあるべきだと私も思います。やはり自分自身を生かしてくれるまちというところが、私としては富谷市に対して感じるところです。ぜひそういったことを含めまして、事務局の方でこの文章の強化をよろしく願います。はい、ありがとうございました。それでは、新藤委員お願いいたします。

(新藤委員)

行政区長会の会長の新藤でございます。私からは2点お話を申し上げます。1点目は6ページにある基本目標7の「協働でつくる持続可能なまち」にある地域活動についてお話をいたします。本日、富谷中学校のお二人がいらっしゃっていますけれども、非常に関連のあるお話です。私どもでは、毎年日吉台中学校の地域防災訓練を実施しています。これは日吉台の各町内会に住んでいる中学校の生徒と町内会が連携して行っている防災訓練で、市の訓練とは別のものになります。自分の住んでいる地域の防災訓練に参加することで、自分の地域一員としての自覚を促す、あるいは地域の活動に進んで参加する中学生を育成する機会にもなると考えて行っています。中学生の生徒には各地区の指定避難所である各町内会館に集合して、町内会長から地域の防災についての講話を聞いたり、玄関に掲げる「無事ですタオル」の出し方や避難所運営のお手伝い、救護車の応援、町内会館の防災備品の確認などを行ってもらったりしています。備品の確認はとても大事です。今は共働きの家庭が非常に多いので、日中何かあった場合に、親は家に戻れないということも考えられますので、地域における中学生の力というものは非常に大事であります。そういう意味で我々は毎年、防災訓練を行って防災に対する知識を養ってもらっています。市とは別に、地域として中学生を巻き込んで行うことが、色々な面で中学生の援護にもなると考えております。また、地域で活動している町内会長などの顔も分からないようではダメだと思いますので、町内会の役員の顔を覚えてもらうことにも繋がっていると思います。私としては、他の中学校がある地域でも可能であれば町内会が連携する形で実施すべきではないかと考えています。最近あった大船渡の山火事のニュースの中でも、中学生が一生懸命活動している姿がありました。やはり、中学生は実働部隊として地域の最大の力であると思いますので、日吉台中学校だけでなく、東向陽台中学校や富谷中学校などがありますので、町内会と連携して防災訓練をやるべきではないかと思います。

これに関連して2点目になります。昨年の10月に日吉台二丁目町内会で芋煮会を実施しましたが、その時に小中学生8人位が僕たちにも手伝わせてくださいということで、町内会長である私のところ

にやって来ました。私は、ぜひともお願いしたいとお答えしたところ、自主的にテントの設営や撤去、机や椅子の搬入など積極的に手伝ってくれました。何か練習用のユニフォームのようなものを着ていましたので、野球部だったのかもしれませんが。ものすごく積極的に手伝ってくれたので、後片付けが1時間30分くらいで終わりました。こうしたことは、地域の防災訓練を中学校と一緒にやってきたことによって具現化した実践事例だと思います。協働でつくるという意味では、地域活動が最大のものであると思いますので、そういったものを常日頃から育てていくような取組が必要ではないかと思います。今日は中学生のお二人がいますが、地域のお手伝いと言われても戸惑うかと思うので、やはり常日頃から訓練することが必要ですし、町内会と連携することが地域の防災などにも繋がってくるかと思います。以上でございます。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。防災は普段の繋がりが重要だと思います。そういう意味では、中学生は地域の中で一番活躍する存在であると思います。中学生のお二人には熱い期待が寄せられておりますので、後ほどお話をお聞きしたいと思います。

それでは、一巡しましたが、どうしても付け加えたいといった方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。大変有意義な意見交換の場になったのではないかと思います。また、前回の審議会の議論を踏まえて、事務局でも作業していただいたと思いますので感謝いたします。前回をベースに更に磨かれてきたと思いますので、基本構想について本日の審議を踏まえて完成を目指していくことになります。修正案につきましては、供覧をいただきながらしっかりとしたものを作りつつ、基本計画の段階ではまたフィードバックさせていただくことになろうかと思いますが、この基本構想がベースになって様々な施策をこれから関連づけながら作っていくという作業になろうかと思います。

最後にオブザーバーのお二人のお話や市長から総括をいただきたいと思いますが、ここまでの議論につきましては一度締めさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、続きまして議事の(2)今後のスケジュールについて、事務局の方からお願いします。

(2) 今後のスケジュールについて

(風見会長)

それでは、議事の(2)今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

こちらは現時点での予定としてお示ししております。まず、本日、3月5日が令和6年度最後の審議会となっております。令和7年度には、5月に第1回審議会を開催させていただき、本日いただいたご意見を反映させた基本構想案及び答申案についてご説明し、答申をいただく予定としております。6月には、基本構想の中間案として、議会へ報告するとともに、基本構想案に対するパブリックコメントを実施する予定としております。7月から8月には、第2回審議会において、現計画の評価及び基本計画案について、ご審議いただきたいと考えております。また、8月にはパブリックコメントを反映いたしました基本構想最終案について、議会へ報告するとともに、9月の定例会において基本構想を上程する

予定としております。11月には、第3回審議会において基本計画案についてご審議いただき、同月に議会への報告、12月には基本計画案に対するパブリックコメントを予定しております。令和8年1月には、第4回審議会において基本計画案の答申をいただき、2月に議会への報告、3月に計画策定を予定しております。説明は以上でございます。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。今年度の審議会は今回で終わりになりますが、来年度がある意味本番になります。今回議論した基本構想案は9月の議会定例会に上程されるということです。まずは本日の意見を踏まえて、もう一度修正案を作っていただきまして、パブリックコメントも含めてしっかりと固めていくことになろうかと思います。

また、資料3として配布されておりますけれども、これまでの審議会の意見の反映状況がまとめられております。こちらにも一度ご確認ください、もし趣旨が違っているなどお気づきの点があれば事務局にお伝えいただければと思います。また、本日の意見につきましても、それを踏まえてどのように変更したのかという経緯、反映状況について整理をお願いします。本当に、各委員のお立場から大変な有意義な意見をいただきまして、議長として大変嬉しく思います。

スケジュールにつきましては、よろしいでしょうか。17時30分の終了予定でありますけれども、皆様のご協力で、内容は充実しておりますが、時間どおり進んでまいりました。ということで、オブザーバーのお二人からお話をお伺いする時間がまいりました。忌憚のない意見でも、本日の感想でも、これからに向けての宣言でも構いませんので、よろしくお願いします。

(オブザーバー①)

まずは、今回、貴重な会議に参加させていただきありがとうございます。初めて審議会に参加させていただいて、資料を見たり、発言を聞いたりして、富谷市は自分たちのために頑張ってくれていると感じました。とても真剣に話し合いをしていただき、とても嬉しく思いました。

自然環境の話がありましたが、富谷中学校の窓から外を見るとほぼ緑で、その緑には疲れを吹き飛ばしてくれる効果があります。例えば、夏の晴天の時に外を見ると、見とれてしまい、疲れを吹き飛ばしてくれます。そんな自然が富谷市にはあるので、残していってほしいと思います。

本日は、本当に貴重な会議に参加させていただき、ありがとうございました。

(オブザーバー②)

今日は、このような会議に参加させていただきありがとうございます。まず、私たちが富谷市のことについて、「生徒会サミット」や今回の会議の場などで、話したり、聞いたりする機会を作ってくれていることが嬉しいと思っています。

公共交通機関についてですが、どこに遊びに行くにしても親の力を借りて車で行ったり、自転車で行かないと遊ぶ場所も無かったりしますので、友達と遊ぶ場所や勉強する場所が近くにあって嬉しいと思っています。

田園都市については、富谷市には自然が沢山ありますし、文化も沢山あって学校で知る機会もあるので、田園都市についての政策はこれからも進めてほしいと思いました。

私は、勉強など沢山サポートしてくれる富谷市が住みやすくて幸せだと思っています。今回、会議

に参加して、改めて富谷市に住んでいて良かったと思いました。ありがとうございました。

(風見会長)

はい、ありがとうございました。立派な発表で聞き入ってしまいました。お二人が大人になる頃までにバトンを渡せるように、若生市長を筆頭にしっかりと聞いていただいたと思いますけれども、我々も審議委員をさせていただいているので、責任ある立場として真剣に議論をしてまいりました。増田委員がおっしゃっていたように、ぜひ皆さん学校に帰ったら会議のことを伝えていただきたいと思います。「オールとみや」には、もちろん皆さんも入っています。将来、自分が住むまちを、自分が意見を出して作っていく仕組みがあるべきですので、「オールとみや」は若生市長が作られたということで、今のお二人のお話はオブザーバーとしてのものですが、その意見を事務局でも踏まえていただきたいと思います。しっかりとこども達の期待に応えていきましょう。引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。

それでは、最後に市長から、委員皆様の全体のご意見と若いオブザーバーのお二人の意見を踏まえて、総括でご発言をお願いします。

(若生市長)

改めて、本日は本当に貴重なご意見をいただきありがとうございます。これまで第1回、第2回の審議会でもいただいたご意見を踏まえて、本日は第3回目ということで基本構想の素案を提案させていただきました。細かいところまで、それぞれのお立場から貴重なアドバイスをいただきましてありがとうございました。おかげさまで、すばらしい基本構想案がほぼ固まったものと考えておるところでございます。本日いただいたご意見をしっかりと踏まえて最終的な基本構想案を策定して、今後も進めてまいりたいと思います。なお、次回は5月に審議会が行われますけれども、最終的な基本構想案についてまた後に議論いただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

大事なのは、基本構想が固まり、その元で基本計画が最終的に作られることだと思いますし、それに伴う実行計画がありますので、構想から計画、実現に向けてということで一つひとつ進めていければと思っているところであります。そして、先ほどオブザーバーから富谷市に住んで良かったという言葉いただきました。何よりもお褒めの言葉をいただき、本当に嬉しく思っているところでございます。

富谷市は実は8という数字に縁がありまして、ミツバチプロジェクトに取り組んでいる村上委員もいらっしますけれども。富谷市は昭和38年に富谷村から富谷町になり、また偶然にも平成28年に富谷町から富谷市になりました。平成28年に市政がスタートし10年の区切りが終わって、新たな総合計画のスタートが令和8年になりますので、まさに末広がり、すごく縁起のよい年に新たな総合計画のスタートできるということで、ワクワクしているところでございます。

とにかく100年間ひとが増え続けるまちを目標に掲げております。ちょうど今年は昭和100年にあたる年を迎えておりますが、富谷の人口は昭和元年からずっと増え続けております。実はその間、2回だけ人が減った年がありまして、昭和20年代に私の祖父もそうですが、富谷村からも戦地に若い人を送り出して、その人たちが戦地で命を落とされた時に減っております。また、ちょうど昭和38年頃に様々な事業が重なって人口が若干減少しています。今回掲げている目標は、昭和38年から100年間、人が増え続けるまちということであります。そのためには、住みたくなるまち日本一を目指しております。

して、住んでいる人から「住んで良かった」と思っていただけ、そんなまちを皆さんとともに作ってまいりたいと思っております。限られた時間ではございましたが、貴重なご意見をいただきまして、風見会長をはじめ委員の皆様にご心から感謝申し上げます。今後も、基本構想から基本計画ということで進めてまいりたいと思います。

また、実は清野委員におかれましてご栄転ということで、審議委員としては本日が最後のご出席になります。改めて、大変お世話になり、ありがとうございました。

(清野委員)

大変お世話になりました。ありがとうございました。私からお話すべきところ、失礼いたしました。

(風見会長)

ありがとうございました。まずは、オブザーバーのお二人は今の市長のお話を直に聞いたということとでしっかりと持ち帰っていただければと思います。都市というものは市長が牽引しておりますけれども、みんなが手を繋いで実現を目指していくということになりますが、富谷市はそれが実行できているまちであると思います。会議の意見というものは、意見として流れてしまうことも見受けられますけれども、富谷市の総合計画審議会は違って、それぞれの意見がしっかりと実現できるように、各委員のご協力もあります、行政側でもしっかりと受け止めていただければと思います。何よりも若生市長にしっかりと受け止めていただいていると思いますので、頼りにしております。先ほど、数字の8についてのお話がありましたが、私も1月8日が誕生日でして、8はキーンナンバーになります。8は横にすると無限大になり、末広がりでもあります。富谷市とのご縁、繋がりを持たせていただいて、感謝しながら本日は帰りたいと思います。

皆様もぜひ来年度に向けて更に資料を読み込んでいただいて、若生市長がおっしゃったように基本構想から基本計画、実現という形で進んでまいりますので、皆様のご活躍の場が更に広がっていくことを祈念して、最後のまとめの言葉とさせていただきます。本日の有意義なご議論ありがとうございました。それでは、司会にお戻いたします。

5 その他

※事務局より諸連絡

6 閉会